



安らぎとにぎわいが織りなす やおつらしさを育むまち ～Smiles for Well-Being～の実現を目指して

平成 29 年3月に「第5次八百津町総合計画」を策定し、町民のみなさまとともにまちづくりを進めてまいりました。この間、新型コロナウイルス感染症の拡大や、地震や台風といった予測できない自然災害による被害など、日常生活の「当たり前」を見直す出来事に何度か直面しました。また、少子化・高齢化に伴う全国的な人口減少は加速し、これまで以上に、地域の特性に合った事業や施策の展開が求められています。

本町には、豊かな自然を生かした観光資源、長く大切に守り続けている祭り、八百津せんべい、栗きんとん、酢、醤油や地酒などの町内外から愛される特産品、さらには、杉原千畝氏の人道精神を受け継いだ教育など「宝物」がたくさんあります。加えて、平成 28 年度に「やおつトンネル」が開通したことで交通利便性が確保され、来訪者が増えるとともに、交流人口、移住者・定住者は増加傾向にあり、今後もさらなる産業の活性化やまちの魅力の向上が期待できます。

一方で、家内工業や農林業などの担い手不足による地域コミュニティの維持は依然として課題であり、これまでの在り方を見直しながら対応する必要があります。また、全国的な課題である出生数の減少に伴う人口減少は、本町でも引き続き取り組むべき課題のひとつです。

そうした状況下で、このたび、令和7(2025)年度から令和 14(2032)年度までの新しいまちづくりの指針となる、第6次八百津町総合計画を策定しました。本計画では、将来像として「安らぎとにぎわいが織りなす やおつらしさを育むまち ～Smiles for Well-Being～」を掲げ、5つの分野別基本計画を示すとともに、主要課題の解決に向けた分野横断的かつ重点的に推進する4つのまちづくり戦略を設定しました。

これからの8年間、人道精神を大切にしつつ、町民のみなさま一人ひとりが笑顔で健康に過ごせるまちづくりを、町民のみなさまとともに進めていきたいと思います。そして、20年、30年先も、「やおつらしさ」を育み続けられるよう、地域と真摯に向き合うまちづくりをともに進めてまいりましょう。

最後に、本計画策定にあたり、八百津町総合計画審議会を始め、八百津ミライ会議、中学生ワークショップ、さらには、まちづくりに関するアンケート調査やパブリックコメントなど、多くの町民のみなさまから貴重なご意見・ご提案を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

令和7年3月

八百津町長 金子政則